

平成18年度第2回川崎区区民会議会議録

日 時 平成18年10月13日(金)午後6時30分
場 所 川崎区役所7階会議室

出席者(敬称略)

(1) 委員 18名

弾塚誠、須山令子、吉邨泰弘、森教祐、古川博子、長谷川幸子、原田歩、金岩勇夫、中村紀子、藍原晃、島田潤二、田辺富夫、魚津利興、朴栄子、青木恵美子、荒井敬八、小笠原功、星川孝宜

(2) 参与 7名

市議会議員：飯塚正良、岩崎善幸、小林貴美子、浜田昌利、林浩美

県議会議員：杉山信雄、武田郁三郎

議題及び公開・非公開

(1) 専門部会委員及び部会長の選出について (公開)

(2) 区のイメージアップ - 第3回アメリカンフットボールワールドカップ2007川崎大会に向けて区民の力を結集して取り組む - について (公開)

(3) 次世代を担う子どもの安全・安心を中心とした地域子育て支援について (公開)

(4) その他 (公開)

傍聴人数

9名

1 開 会

事務局 (会議の公開、傍聴の遵守事項、会議の記録を説明)

2 委員長あいさつ

委員長 第1回会議ではテーマを「区のイメージアップ」と「次世代を担う子どもの安全・安心を中心とした地域子育て支援」に選定し、それぞれの専門部会を設置することを決定した。

この区民会議の趣旨は、地域の課題に地域の人や区役所などの協力を得て取り組んでいくことだと思う。

特に子どもの安全・安心に関しては、今月(10月)3日に女子中学生が制服をハサミで切りつけられる事件もあり、議論を重ねるだけでなく、できるだけ早急に対策を講

じなければならぬと思う。

事務局（本日の予定を説明）

3 議 題

（1）専門部会委員及び部会長の選出について

事務局（資料を確認）

事務局 第1回区民会議開催後の8月10日に幹事会を開催し、専門部会委員の選任は各委員の希望を調査し、人数の偏りがあれば幹事会で調整することに決まった。8月下旬に希望調査を実施し、人数の偏りがなかったため9月6日の幹事会で専門部会委員案を作成した。

9月21日にイメージアップ部会、29日に子育て支援部会とそれぞれの準備会を開催し、専門部会の委員構成と部会長を内定した。

委員長 川崎市区民会議条例施行規則第4条第2項の規定により、正式には、専門部会委員は委員長が区民議会に諮って指名するが、専門部会委員案のとおり指名することでご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

委員長 専門部会の部会長も正式には、同施行規則第4条第3項で専門部会委員の互選により定めるが、各専門部会準備会で、イメージアップ部会は金岩委員、子育て支援部会は田辺委員に内定した。ご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

委員長 各専門部会も仮称を外し、正式に「イメージアップ部会」と「子育て支援部会」を設置する。

部会長からあいさつをお願いしたい。

イメージアップ部会長 9月28日にラゾーナ川崎がオープンし、川崎駅前が大きく変わった。人の流れが西口へ行ってしまったが、それに負けないよう区のイメージアップに努力したい。負の財産が議題から多く見受けられるが、アメフトワールドカップをひとつのきっかけにして、みんなで力を合わせて1つずつ解決していきたい。

子育て支援部会長 部会員はみなさん専門的な経験と知識を持っているので、みなさんと協力して地域子育て支援に取り組みたい。

(2) 区のイメージアップ - 第3回アメリカンフットボールワールドカップ2007川崎大会に向けて区民の力を結集しイメージアップに取り組む - について
委員長 各専門部会の委員には準備会でいろいろな意見を出してもらったが、自分が所属していない専門部会の課題にも積極的に発言して欲しい。

事務局 (資料を説明)

事務局 第1回区民会議では区のイメージアップを審議課題にするということだったが、この審議課題の中に他の課題が複数含まれるため、区のイメージアップは審議テーマとし、審議テーマに含まれる解決すべき課題を課題とした。

委員長 時間の都合上、各テーマ1時間弱で打ち切るが、今後、専門部会で具体的な取り組みを検討する。今日は地域の取り組み事例、問題解決策などを提案して欲しい。

委員 川崎区を優しいまち、住んでいてよかったまち、住んでみたいまちにしたい。しかし、現実にはたくさん問題がある。

放置自転車問題は、区内が平たんで、JR川崎駅に全てが集中していることが一因と言える。そのため、市の川崎駅周辺総合整備計画を踏まえて議論する必要がある。町内会や交通安全母の会など、区内のさまざまな団体がポイ捨てや交通安全対策などの取り組みをしているが、一時的なもので終わらせない工夫が必要だと思う。

アメフトについては、区民会議としてはまちの雰囲気をもくもくすることが重要であって、単に会場が観客で一杯になれば成功ということではない。

区内の歴史に関しては、子どもたちに歴史ガイドしている中で、子どもたちが歴史の中からいろいろなものを吸収していこうということが感じられた。そのため、子どもたちと触れ合う大人たちも変わらなければならないと思う。

委員長 子どもたちは大人をよく見ている。この会議の前に警察の会議にも出席してきたが、子どもは大人をまねるといった意見が出ていた。大人がしっかりしないとまちもよくなると思う。

委員 イメージアップ部会は「身近な環境整備」「アメフトワールドカップの成功」「歴史を観光に活かす」の3つの課題に対し、区民にどのようなことができるのかを具体的に

に検討すべきだと思う。

課題に対する今後の展開策を網羅的に取り組むには時間が足りないと思う。1つずつ検討していったらどうか。

委員 各委員の意見を集約するためにまず3つの課題を同時に検討し始め、その後、一番重要と思われる「身近な環境整備」に絞る。そしてそれがうまくいけば「アメフトワールドカップの成功」、「歴史を観光に活かす」を検討するという流れがよいと思う。

まず、私たち区民が何をしなければならないかを検討しなければならない。行政にもお願いすることもあると思うが、よろしくお願いしたい。

委員 アメフトワールドカップ成功に向けて、既にいろいろな団体、協議会などが取り組みを進めているので、専門部会では課題を絞って検討をしていくという流れに賛成である。

私には大学生の息子がいるが、「川崎には魅力がある。周辺のまちからも多くの人が遊びに来ている」と言っていた。また、その息子は大学でアメフトしているため、夏休み期間に地域の小中学校でラグフットボール教室のボランティアをしたが、とても好評だった。そこで、まず子どもや若い人を対象に取り組んでいくのがよいのではないだろうか。JR川崎駅東西自由通路でプロモーションビデオを流したらよいと思う。また、歓迎ムードの演出は大人が見本になり、あいさつ、笑顔といった迎える気持ちの醸成を検討していきたい。

「歴史を観光に活かす」という課題は、いろいろな団体の取り組みを踏まえ、区民会議では何をすべきかを検討したい。

委員 川崎区は中央・大師・田島と3つの地区があるが、それぞれの地区で共通する部分と異なる部分がある。私は田島地区在住だが、田島地区は臨海部なので企業のものづくりが特徴である。

「身近な環境整備」では、区内の自転車の数が多いと思う。自転車数、駐輪場の収容台数など、行政に数字を把握してもらい、それをもとに検討すれば区民会議ですべきことが見えてくると思う。

行政、企業、区民などが協力して取り組んだ事例として、現代彫刻展2006がある。9月から12月にかけて臨海部で開催されていて、プロの彫刻家や学生などが地域の各所で作品を展示するのだが、行政や地元企業のJFEが公園や広場などの場所を提供し、地域の人が清掃などの環境整備をした。

具体的な取り組みとして「まちを花で飾る」とあるが、以前、神奈川国体の際にも商店街や区民が参加して実施した。このように参加しやすい場や材料の提供を検討してい

くべきではないかと思う。

区長 自転車数、駐輪場の収容台数については、今年の6月6日の9時台に調査した結果、自転車の利用台数は1万2,555台、前年比694台増である。駐輪場の収容台数は6,633台だが、収容台数以上に利用しているので、実際の利用台数は9,069台である。差し引きすると3,486台が川崎駅周辺に放置されていることになる。昨年の調査では3,276台だったので、210台増である。

委員 「アメフトワールドカップの成功」としては、JR川崎駅東西自由通路でプロモーションビデオを流す案に賛成する。

「身近な環境整備」は放置自転車問題が1番重要だと思う。川崎区は平坦で自転車を利用しやすいことも理由だと思うが、東西方向のバス路線が少ないことも理由ではないだろうか。また、マンション居住者がマンション前の道路に駐輪している例も多く見受けられるので、自動車のように自転車置き場の証明がなければ購入できないような規制があってもよいと思う。自転車は気軽に使えて、公害もないよい乗り物だと思うので、放置自転車問題をうまく解決できたらよいと思う。

たばこのポイ捨て問題は、今年から「路上喫煙防止条例」が施行されてかなり減った。条例で取り締まりができている成果だと思う。

ホームレス問題は、富士見公園のホームレスは施設に入居しているが、多摩川の土手では増えているようなので、対策が必要だと思う。

委員長 自宅マンション前の道路に自転車を駐輪していると、それが習慣になり、どこに駐輪しても気にならなくなってしまうのかも知れない。

委員 川崎区は川崎市のイメージにつながる。JR川崎駅西口にラゾーナ川崎ができたが、外から来る人は「川崎へ行こう。川崎にラゾーナができた」と言い、幸区にできたとは言わない。

西口に最新の建築物など新しい文化を創出させたことはかえって好都合ではないだろうか。東口は東海道の宿場町だった歴史があるので、「歴史ある川崎」をアピールするいいタイミングだと思う。

東海道を利用した川崎のイメージづくりをしたいと考えているが、資料3にある東海道川崎宿の資料館（おもしろ館）のような拠点が必要だと思う。これは、拠点づくりや運営に区民が参加する計画になっていてよいと思う。イメージアップ部会で検討すれば、実感を持って取り組めると思う。他の課題は、具体的な問題だが実際の取り組みが難しいと思う。

委員 総理大臣が「美しい国」とうたっているが、川崎区は「美しい区に」ということで、区民会議のアンケート調査でもきれいなまちを希望する声が多く見受けられる。そこで、放置自転車、ごみ、路上喫煙など「身近な環境整備」に注力したいと思う。

これらの問題は、突き詰めると人の問題だと思う。例えば、放置自転車は、もちろん駐輪場が絶対的に少ないということがあるが、自転車が問題なのではなくて、それを利用する人のマナーが問題ではないだろうか。ごみ、路上喫煙なども同じだと思う。最も大事なのは大人の教育だと思うので、マナーの啓発活動に取り組んだらよいと思う。

アメフトワールドカップはその大きなきっかけになる。この機会を活用して外から来る人にきれいなまちを見せ、そこから普段のまちもきれいにしたいという気持ちを醸成できればよいと思う。アメフトワールドカップの成功のみならず、これを機会に区民の意識が変わればよいと思う。

区民会議アンケートは高齢者の回答が多いが、これは川崎区に長年住んでいる人の、「自分のまちをよくしたい」、「自分たちの子ども、孫の世代に引き継ぐために住民としてまだすべきことがある」という強い思いの表れだと思う。

区民会議で議論したことは実行できるもの、具体的な形で成果があらわれるものにした。そういった活動を通じて、自分たちのまちを愛する人づくりができると思う。課題への取り組みは、焦点を絞ってできることから実行したいと思う。

委員 区のイメージアップがうまくいったら、全ての区民が心地よくなるという趣旨の意見があったが、外国人の区民は、日本語がわからない人の場合、一緒に行動することができないため、心地よくなれないことがある。例えば、自転車の駐輪の場合、どこに止めていいかわからなくて、他の人が止めている場所に止めたら駐輪禁止場所だったり、ごみ出しの場合、他の人が出しているから出したが、その日は資源物の日にもかかわらず普通ごみを出してしまったりという場合がある。

そのため、日本語がわからない外国人にもわかるような情報の提供をしていかなければならないと思う。具体的には、その人たちがわかる言葉で表示をして欲しい。アメフトワールドカップを観戦しに日本中から外国人が来ると思うが、自分の母国語でいろいろな表示があれば、川崎に住みたいと思うかも知れない。

委員長 私たちが外国へ行った場合に、日本語で書いてあれば理解できる。逆の立場になればそういうことだと思う。

(3) 次世代を担う子どもの安全・安心を中心とした地域子育て支援について

事務局 (資料を説明)

委員 区内で女子中学生がハサミで切りつけられる事件が起きた。今、子どもに対する事件が増加し、一刻も早く子どもの安全・安心を確保しなければならないと思う。

各地域でいろいろな取り組みが行われているが、それを系統立ててつなげていく必要があると思う。

委員長 地域によって取り組み方もいろいろと違うと思うので、いろいろな事例を挙げて話して欲しい。

委員 今日の午前中、旧大師健康ランチで子育てサロン大師が行われた。70組くらいの親子が集まり好評だった。

地域の人が登下校時に子どもを見守ってくれている。大人が子どもを見守るだけでなく、子どもが大人を見守る事例もある。いつも学校へ行くときに見守ってくれていた人がいなかったと、子どもが学校の先生に報告し、先生が地域の民生委員に連絡したところ、熱を出して寝ていたということがあった。大人と子どもがお互いに支えあって地域で見守っていて、素晴らしいことだと思った。

委員 子育て支援は子どもへの直接支援だけでなく、親への教育や経済的な支援も大切だと思う。乳児期の親の接し方がその子どもの一生を左右すると思うので、十分に愛情込めて育てることが大切だろう。

小児救急の問題だが、小児救急も小児科も数が少ない。ただ本当に救急で診なければならない患者かということ、そうでもない。実際には親が子どもを診る力がないので、日常診療の延長で、昼間に診てもらえないから救急ではないのに夜連れていっているため、本当の救急患者を地域で診られない状況になっている。

市立川崎病院は1次救急を診ているが、診きれなくて、患者が他区や他都市の病院に行っている状況である。産科医も減っている。低出生体重児が増えているが、NICU（新生児集中治療室）がこの地域では市立川崎病院の5床しかなく、早産になったら地域で受け入れられない。そのため、千葉県へヘリコプターで妊婦さんを搬送しているような現状がある。行政的な問題だが、これも区民会議の一つの意見として挙げておきたい。

委員 区内で女子中学生がハサミで切りつけられる事件が起きてから、地域の人が子どもに目を向けてくれている。PTAだけではなく、地域の団体や他の地域の人にも協力してもらい、パトロールを行っている。今後、途切れることがないように啓発活動をしていくことが大切である。

正確な情報収集や、その情報の関係機関への提供が大切である。例えば、子どもが不審者に触られただけで家へ帰って来た場合、「何もなくてよかった」と思って情報を止めてしまう場合がある。その情報をすぐに警察などに提供しなくてはならないことを、保護者に知ってもらわなければならないと思う。

委員 女子中学生の事件を受け、民生委員協議会でもこの問題を考えていきたいと思っている。

区内に産科が少なく、助産院も満床状態という問題は、行政に早急に取り組んで欲しいと思っている。

委員長 産科や助産院の問題は、区民会議だけでは解決できないこともあるので、行政、議員の先生にも対応をお願いしたい。

委員 地域の見回りはそれぞれの小学校が特色のあるやり方で行っているので、このまま交流や情報公開しながら、不足があれば補うような形で進めればよいと思う。

夜間の小児救急は、専門の小児科医に見てもらうべきだと思う。救急でないのに夜間救急に行く人には、保健所などで行っている出産前の健診で注意をして、事前に保護者への教育もすべきだと思う。

子どもを幼稚園に入れたくても、いっぱいに入れられない人がいるようだ。また、2人、3人と子どもを持つ人は経済的理由から幼稚園に入れられない。子育て支援センターむかいにも、そういう親子が来ているが、親が2人の子どもを見ようとしても、目が行き届かない場合がある。自宅で育てた場合、親の負担が大きいので、子育てサロンなどの支援を毎日のように行うべきだと思う。

子どもは宝と言われるので、産んだ夫婦だけに経済的負担をかけるのではなく、行政や周りも支援すべきだと思う。

「身近な環境整備」でマナー啓発という意見があったが、悲惨な事故が続発しても飲酒運転がなくならないように、一部の区民の力だけでは、マナーの改善は非常に難しい。行政や政治の力が必要だし、費用もかかる。しかし、50年、100年先考えれば、多くの費用がかかっても、解決の方向に進めていかなければならない。

閉園した保育園を活用し、費用をかけて子育て支援施設にすれば、保護者の教育もできると思う。子ども教育以前に保護者の教育をしなくては、問題は解決しないと思う。

委員 地域に子どもを預かってくれるところがない。私の町内会では隣近所で話をして、買い物行くときに子どもを預かろうというような話をしている。また、最近、大型マンションの建設も増え、子どもも増えているが、もっと子どもを産んでくれるように子ど

もを産んだらお祝い金と粗品を提供している。このようなお誕生祝い制度を区で創設できないだろうか。例えば老人クラブへの支出を少し削っても、子どものお祝いを出せないだろうか。

最近、核家族で共稼ぎ世帯が多いので、子どもの面倒が見られない家庭が多い。昔の田舎では農繁期に託児所などで子どもを預かってくれたが、そういう場所が増えればよいと思う。

小児医療では、地域の小児科の数が少なく、技術も高くないようなので、クリニックで診察を受けている。

小学校でいじめも多くあるようだが、先生が子どもの様子を見て見ぬふりしていることがあると思う。例えば、中学生が陰でたばこを吸っていても、先生が見ても見ぬふりをしてしまう。そうすると、その中学生は避けられていると感じてしまうかも知れない。もっと先生が細かく子どものことを見られないかと思う。参与に意見をいただきたい。

参与 現在子どもを取り巻く環境は非常に厳しいと認識している。学校の先生は、学校教育の仕事が非常に難しくなっていると言っている。昔の教員は学校で子どもと遊ぶ時間があったが、今はそれができない。夕方6時、7時まで仕事がある。現場からそういう声が聞こえてくるが、子どもを見るには子どもと触れ合わなければならない。そこで、子どもと触れ合える教育現場をつくらなければならないと思う。

先生と保護者のコミュニケーションも足りないと思う。先生だけに子どもの全てを見ろと言っても、できない場合もある。保護者と先生のコミュニケーションがもっと取れる学校をつくる必要があると思う。

委員 子どもを安心して産み育てることができる環境が大人のゆとりになっていくと思う。川崎区は核家族の方が多と思うので、子育てを親だけでしなければならない。夜間救急の問題は、「これぐらいなら大丈夫」「明日の朝まで様子見ていけばいい」などと言ってくれる人が周りにいないので、軽い病気でも、もしかしたらしたら大きな病気かもしれないと思い、夜間救急に行ってしまう。若い夫婦にちょっと助言をしてくれる経験者が近くにいて、そういう人たちと連絡が取れれば、もっと安心して子どもを育てていけると思う。

小児科の夜間救急は市内で輪番制なので、曜日が悪いと北部の区などの遠くまで行かなければならない。

地域の中で子育てを経験した人たちと若い夫婦が出会う場所があったらよいと思う。

保育園になかなか入れられないが、入れられたとしても、共働き家庭の場合、子どもが病気になったときには、保育園で預かってもらえないので、仕事を休まなければならない。仕事を休むと仕事が無くなってしまふ場合があり、無理してでも子どもを保育園

に連れていっている。親はそういうことでストレスがたまり、虐待につながると思う。親がほっとできる空間が地域の中でできていくとよいと思う。

こども文化センターが、学童保育跡の場所をフリースペースのようにして地域の子育て支援のために開放しているが、場所だけを提供している状態で、しかも狭いので、自宅にいるのと大差がない。子育てのベテランの人が一緒にお茶を飲むなどをしてけると、ほっとできてよいと思う。地域の人を力を借りながらできたらよいと思う。

委員 京都市地域女性連合会が「となりのおばちゃん」という制度を実施している。これは、女性会会員が中心となり、子どもを持つ親の相談に乗ったり、疑問にこたえたりするというものである。「となりのおばちゃん」を示すプレートが地域の人の家や商店に掲示してある。区の女性会でも同様の制度ができたらよいと思う。

副委員長 資料の審議テーマ課題整理表に現在までの取り組みとあるが、その取り組みの中で課題解決に至っていないと部分があるので、区民会議ではこれらの課題解決をしたいと思う。

区民の役割欄を担っているのは、ほとんどが町内会、民生委員児童委員協議会、老人会などの地域の団体であるが、その中では町内会が一番多くの役割を担っている。しかし、町内会が、今後、区民会議で審議された具体的取り組みの活動を実行するのは難しいのではないかなと思う。町内会とは別に実際に活動する人たちが必要である。私案だが、町民会議のようなものを設置して、地域課題を語り合うような人、特に団塊の世代、シルバー世代の人たちに参加してもらい、町内会と連携して取り組めたらよいと思う。

「身近な環境整備」は区民が取り組むべき多くの課題が残っている。「歴史を観光に活かす」は既に区民がさまざまな取り組みを実施しているため、今後の大きなテーマは、委員の提案のように、資料館のようなものをつくることだと思う。

今後、それぞれの部会で具体的取り組みを担う区民の組織化が大きな問題になってくると思う。

委員長 本日は各委員から貴重な意見をたくさんいただいた。今後、各部会で実行できるものから検討していくようお願いする。

(4) その他

委員長 何かあれば発言をお願いする。

委員 「区のイメージアップ - 第3回アメリカンフットボールワールドカップ2007川崎大会に向けて区民の力を結集して取り組む - 」という審議テーマについてだが、サ

ブタイトルが誤解を招くのではないだろうか。委員はアメフトワールドカップをきっかけにするという考え方を認識しているが、アメフトワールドカップに向けて取り組むような表現に受け取られる。アメフトワールドカップで市外から人が来るから課題を解決するという事なので、違う表現に変更することを提案する。

委員長 市外から人が来るからまちをきれいにしようという意味にとらえてもらえるようにしたい。

委員 審議すべき課題がかなりあるが、部会はどのくらい開催すべきか。

委員長 部会長にも出席してもらい、幹事会で調整したい。

委員長 参与として出席していただいた議員の方にお話をお願いしたい。

参与 子どもの安全・安心についてだが、子どもの見守り制度が10月から開始された。現在は小学校だけなので、議会でも中学校や高校に拡大していくべきとの意見があった。そのような中、区内で女子中学生がハサミで切りつけられる事件が起こったが、それを機に区民も具体的な取り組みを始めているという情報を得られて有意義だった。議会もこの課題に対して取り組んでいきたいと思う。

参与 放置自転車問題は、議会でも取り上げているが、なかなか抜本的解決ができない。マナーの問題という意見があったが、子どもうちからマナーを学ぶことが必要だと思う。自転車のマナーやルールの講習は、小学生のときに1回くらいしか行われていないようだが、月1回くらいに増やすべきだろう。町内会でもマナー講習を実施するなども必要だろう。継続的な積み重ねの中でマナーの向上が図られていくと思う。

イメージアップにかかる情報発信は、若い人に直接伝わるような手段が必要だと思う。例えば、携帯電話が非常に普及しているので、QRコードを利用すれば「歴史を観光に活かす」という課題に利用できると思う。

子育て支援問題だが、区内ではマンションがどんどん建設されている。中には、子育てで孤立している人がいる。そういう人が地域で交流できるような制度をつくりたいと思う。

参与 子育て支援問題だが、夜間小児救急については国が制度化した。電話で#8000にダイヤルすると、医師や看護師が対応する。

子どもの一時預かりは、川中島保育園と四谷にあるよつば保育園で実施している。親

が映画・音楽鑑賞など、遊びに出掛ける場合でも預かってくれる。今後、他の保育園でも同様な制度が導入されればよいと思う。

以前、議会の委員会でも要望したが、区民会議に若い人たちもぜひ入れて欲しい。年齢の高い人と若い人の視点は違うと思う。今回の区民会議委員には若い人がいないので、各委員は若い人たちの声を聞いてきて、若い人の代弁者としても発言して欲しい。

委員長 専門部会で若い人の声を聞くような企画ができるのではないかと思います。

参与 各委員の意見や提案の中には、いろいろな意見を聞くことができ、とても勉強になった。今日聞かせていただいた意見や提案は、今後の議会活動に活かしていきたい。

参与 区民会議の審議結果をどう実現するか、区民会議と地域の団体との連携をどう図るかなどが重要だと思う。

文化振興については、区内でボランティア活動が起こってきているので、それを大切にしていってほしいと思う。

その他には、財政の問題や行政にどうつなげていくかということが挙げられる。

委員長 以上で議事は終了する。

司会 事務局から事務連絡と区長のお礼の言葉をお願いします。

事務局 (会議録の公開、市政だよりでの広報、次回日程を説明)

区長 各委員はどちらかの専門部会に所属するが、本会議の中では所属する専門部会にかかわらず自由に意見を述べていただきたい。

専門部会の開催回数は、委員長が説明したとおり、幹事会で調整したい。

若い人の声を取り入れたほうがよいとの意見があったが、関係者として区民会議や専門部会に出席していただき、意見を聞くことも可能である。

次回の区民会議は専門部会での調査、検討を踏まえて開催したいと思う。

4 閉 会

司会 以上で平成18年度第2回川崎区区民会議を終了する。